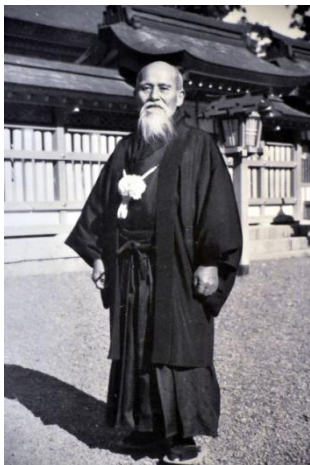


# 熊野塾

一九五三年より



# 合気道

本家



# 合気道熊野塾 略歴

合気道 熊野塾は、1949年（昭和24年）に開祖より道場建設の命を受け、1953年（昭和28年）7月に開塾致し、2013年（平成25年）六月三十日には、植芝守央道主のご臨席を賜り、六十周年祭が執り行われました。道主からは、「現在、世界には大きな合気道の和ができています。熊野塾はその和を創る重要な位置にある。また、開祖の意を汲んで引土道場長が築き上げられた道場をしっかりと守り、次に時代に引き継いでいくことを忘れないように」とのお言葉を頂きました。

新宮市では、1928年（昭和3年）に新宮の尾崎酒造酒蔵2階にて合気道の稽古が始まりました。このときは、久保嘉弘氏（当時久保写真館館長）が開祖をお迎えするためにご尽力されました。新宮市で合気道が始まってから今年2017年で八十九年になります。

1937年（昭和12年）に引土先生は14歳で、この尾崎酒造酒蔵道場に入門を致しましたが、その後太平洋戦争が始まり稽古も中断していました。

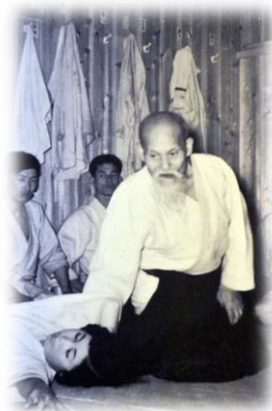
引土先生によると、終戦後の、1949年（昭和24年）に、開祖植芝大先生からの電話で、越の湯にいるから来なさいと呼び出しがありました。単車を越の湯まで走らせ、大先生との再会をしました。開祖は、こ



の時に、終戦後はGHQにより日本の武道は禁止をされているが、『マッカーサーが合気道はやってくださいと言っている』とのお話を引土先生にされ、道場建設の命をだされました。開祖は次のようなことも話されました。

『道雄さんな あんたは ぢいと一緒に 武道をやるために生まれてきたんじゃ。これからの人生を武道一筋に生きよ』『これからの武道は破壊の武道であってはいけない。和合の精神を踏まえた新しい時代を築く武道にしていかなければならない。天国を地上に移すのだ。和合世界の実現、神の愛の大精神により世界大家族主義を樹立することだ。あんたはしっかりとぢいについてきてください。』

その後、久保氏を中心として、新宮財界有志の協力を得て21畳の道場が完成しました。完成当初(昭和27年)、熊野支部としているのを開祖が見られて、『ここは、支部ではない、東京と新宮が本部じゃ ぢいのおるところが本部じゃ』とおっしゃられて道場名を『熊野塾とせい』と命名いただきました。また その後 玄関には開祖のお名前でも表札をあげました。1959年(昭和34年)道場を増築し、60畳となり、1973年には、現在の106畳の道場が完成しました。(60畳の道場の前後に増築して完成した。)



## 引土先生のお話より

昭和28年当時は、まだ紀勢線が未開通で、開祖が新宮へお越しのときは、名古屋で1泊され、尾鷲からバスに乗り、木ノ本にお着きになり、木の本から電車で新宮にお入りになられた。新宮にお着きになったら夕刻5時ごろで、『道雄さんな 今から熊野山じゃ』と言われて そのまま本宮大社にご参拝された。

開祖は、ご昇天されるまでの間、新宮へは、短いときには約2週間、長いときには約1ヶ月間滞在され、百数十度本宮大社におまいりをされた。開祖はよく 『熊野の神さんの御息の顕われが合気道じゃ』と仰せられていた。



### 熊野塾稽古時間

一般の部

日曜・祝祭日を除き毎日

朝 6時30分より7時30分

夜 7時30分より9時00分

子供の部 火曜日から金曜日

夕方 5時40分から

☎ 0735-21-3103

上記稽古時間に連絡ください。

住所 和歌山県新宮市

元鍛冶町1-5-1

道場長 須川 勉

場長代行 西 輝男

祭事担当 栗林 盛夫

師範部長 田坂 光男

事務局 田坂 光男

e-mail [tska@rifnet.or.jp](mailto:tska@rifnet.or.jp)